

III 参考資料

1 . 阿蘇の草原再生に関わる地元活動団体の紹介

千年にわたり、地域の人々の生業とともに維持されてきた阿蘇の草原を守り、再生するために、地域の人々の活動に加えて、さまざまなNPOや関係団体、行政が参加して草原保全、再生の取り組みが始まっています。

シンポジウム開催にあたって、活動紹介という形で参加を希望された地元活動団体（10 団体）より、取り組み内容や、阿蘇の草原再生に向けたご意見などをいただきましたので、シンポジウム当日配付資料に掲載してご紹介しました。

< 紹介団体 >

財団法人 阿蘇グリーンストック

阿蘇たにびと博物館

財団法人 阿蘇地域振興デザインセンター

阿蘇地区パークボランティアの会

阿蘇フォーラム

阿蘇モーモーレディースの会

うぶやまさわやかビーフ生産組合

NPO 法人 九州バイオマスフォーラム

熊本県農業研究センター草地畜産研究所

はなしのぶコンサート実行委員会

(五十音順)

団体の住所は、平成 17 年 2 月 1 3 日現在です。

財団法人 阿蘇グリーンストック

代表者名： 理事長 河崎敦夫
住所・連絡先： 〒869-2232
熊本県阿蘇市赤水695-10
電話 0967-35-1110
<http://www.aso.ne.jp/~green-s/>

団体の概要・設立趣旨など-----

阿蘇の緑の大地（草原・森林・農地）を、広く国民共有の生命資産（グリーンストック）と位置づけ、農村・都市・行政三者の連携により、後世へ引き継いでいくことを目的としています。

主な活動内容-----

- (1) 草原保全活動
 - ・ 野焼き支援ボランティア活動
 - ・ あか牛オーナー制度
- (2) 水源涵養及び森林保全活動
 - ・ 水源涵養の森づくり活動
- (3) 都市農村交流(グリーンツーリズム)事業
 - ・ 農業農村体験型修学旅行の受け入れ
 - ・ 阿蘇の自然体験受け入れセンターの運営
- (4) 自然環境調査活動
 - ・ 阿蘇の自然資源調査
 - ・ 阿蘇の水資源調査
- (5) 農林畜産業振興支援事業
 - ・ 阿蘇のあか牛、特産品の産直、普及活動

阿蘇の草原保全・再生に関連する取り組み-----

- (1) 野焼き支援ボランティア活動
地元だけでは維持の難しくなった牧野へ、研修を受けた都市ボランティアを派遣して、輪地切りや野焼き作業を支援しています。
- (2) あか牛オーナー制度
協力いただける方に一口30万円であか牛のオーナーになっていただきます。畜産農家に母牛を導入してもらい、オーナーは牛に好きな名前をつけ、ふれあいを楽しみます。またオーナーにはお金を返す代わりに、5年間に渡って、あか牛肉及び阿蘇の農産品が送られてくるという仕組みです。

草原再生への意見-----

- (1) 国立公園としての「広大な」阿蘇の草原景観の特徴を維持するためには、国、県などの省庁の枠を超えた思い切った支援策が必要と思われます。（例えば地元の野焼きの負担軽減と草原景観の確保のために、山の中腹以上の山林は出来るだけ除去するとか）
- (2) 広大な草原を維持・保全するためには、畜産や酪農などの振興と同時に、草原の維持・利活用が都市部の人々の協力も含めて、地元農家の収入増や負担の軽減に結びつく新しいしくみづくりが必要です。

阿蘇たにびと博物館

代表者名： 館長・学芸員 梶原宏之
住所・連絡先： 〒869-1505
熊本県阿蘇郡南阿蘇村大字中松 4120-2
電話 0967 - 64 - 8200
<http://www9.ocn.ne.jp/~tanibito/>

団体の概要・設立趣旨など-----

阿蘇谷・南郷谷の草原に生きる人びと（谷人）の民俗文化を調査研究・収集保全し、普及教育するためのエコミュゼ（フィールド全域を展示室とする博物館）。1997年に設立。

主な活動内容-----

谷人たちの生業、衣食住、社会組織、年中行事、人生儀礼、民間信仰、口承文芸などに関する民俗学的調査研究、報告書の作成、映像記録、史資料の収集保存、それらの活用保全に関する協力提言、講演。

阿蘇の自然と文化の関わりをテーマとしたフィールドツアー（常設展）、修学旅行生などを谷人に紹介して交流体験する谷人ツーリズム（特別展）、学校教育との社会学連携、阿蘇に関する研究者のネットワーク、阿蘇を調査研究する学生たちの支援、友の会組織の運営、阿蘇に関する図書文献の収蔵や貸出、その他博物館法にもとづくあらゆる社会教育事業。

阿蘇の草原保全・再生に関連する取り組み-----

阿蘇の大きな特徴である草原という自然環境の成立が、そこに生きる人びとの長年にわたる生産活動に大きく関わっている姿（文化生態系）を描き出し、それをより多くの阿蘇以外の人びと、また次世代の阿蘇の子どもたちに伝えていくための取り組みを行っています。

具体的には、阿蘇を訪れる人びとに対してフィールドツアーを提供したり、友の会の月例会で現地を案内したり、地元小中学校の授業で子どもたちに阿蘇を伝えたり、よそから修学旅行に来る子どもたちに地元の畜産農家を紹介しその実際を理解・応援してもらえるような活動を行っています。

草原再生への意見-----

草原を再生するかどうかの問題も含めて、これらはすべてこれから阿蘇に生きる人びとの共通の課題です。より有意義な認識を共有するためにも私たちは多くの情報を共有し、多くの議論を重ねねばならないでしょう。そのためにこれまで阿蘇がどのような過程で成り立ってきたかの調査研究および資料収集は不可欠です。そして忘れてならないのは、この阿蘇には貴重な動植物だけではなく、貴重な人間（畜産農家）もたくさん生きているということです。彼らなくしては阿蘇は成り立たない。阿蘇を守るといえることは、つまり彼らを守るといえることでもあります。ここが他の国立公園と異なる阿蘇の最も異質であり、かつ魅力的な部分でしょう。そうした認識の共有から始められればと思います。

財団法人 阿蘇地域振興デザインセンター

代表者名： 理事長 宮崎暢俊

住所・連絡先： 〒869-2612

熊本県阿蘇市一の宮町宮地 2402 熊本県阿蘇総合庁舎内

電話 0967-22-2401

<http://www.asodc.or.jp/>

団体の概要・設立趣旨など-----

『阿蘇』は熊本県の貴重な地域資源であるとの認識のもと、住民を含めた地域全体が自立自興の精神を持ち一丸となって、将来の地域振興の基本方向を示し、地域が一体となり、地域づくりを進めるための事業を行うことを目的としています。

主な活動内容-----

- (1) 阿蘇地域の基本方向を示す地域デザインの策定及びこれを具体化するための関連事業
- (2) 地域づくり、観光振興に関連した調査企画、情報の提供発信事業、誘客宣伝事業、イベントの企画開催事業、商品の企画開発事業
- (3) 環境に関連したイベントの企画開催、阿蘇地域の PR 活動
- (4) 海外も含めた地域間交流活動
- (5) 地域住民の啓発活動
- (6) 近年では、阿蘇地域の商店街、農村、自然の魅力を発見し、列車やバスなどの公共交通網で結びながら、新しい旅のあり方を提案するスローな阿蘇づくり「阿蘇カルデラツーリズム」を推進しています。

阿蘇の草原保全・再生に関連する取り組み-----

- (1) 阿蘇自然案内人協会の運営
 - ・ 阿蘇自然案内人協会では「自然、文化、環境との共生・調和を目指した新しい体験型の地域観光」のエコツーリズムを推進し、旅行者がより深く学び、楽しめるように案内、指導することによって地域の活性化、環境地域づくりを図ることを目的としています。
- (2) 阿蘇のあか牛消費拡大推進協議会の運営
 - ・ 「あか牛」は、耐寒・耐暑性に優れており、草資源の利用性が高く放牧にも適しています。また、阿蘇地域においては広大な草原とともに観光のシンボルとなっています。協議会では、阿蘇のあか牛のブランド化、ひいては草原の保全を目的として、あか牛の消費拡大を推進しています。

草原再生への意見-----

阿蘇の草原は地域に暮らす人々の生活の中で、放牧地や採草地として利用されてきました。また草原の野の花を仏様等に供える盆花という文化や習慣も生み出しました。これは阿蘇の人々の暮らしが草原と共にあり、草原の野草を身近に感じ、生活に取り入れていたことが分かる事例であり、阿蘇の風物詩でもあります。

草原の保全を考える時、このような美しい慣習を引き継ぎつつ、盆花採りで活用している草原を守り、地域の文化や希少種保全に繋げる必要があります。阿蘇の大陸系遺存植物の殆どは草原の減少で生育が危ぶまれています。希少種絶滅を防ぐためにも生育環境維持が重要です。

阿蘇は世界最大級のカルデラ地形と雄大な草原景観により国立公園に指定され、今では毎年多くの観光客が訪れています。地元の人達とともに重要な自然、代表的な草原景観を把握し守ることは、阿蘇の魅力を維持していくことにつながっていきます。

阿蘇地区パークボランティアの会

代表者名： 会長 上島敬次

住所・連絡先： 〒869-2225

熊本県阿蘇市黒川 974-9 (財)自然公園財団阿蘇支部内

電話 0967-34-2171

団体の概要・設立趣旨など-----

阿蘇くじゅう国立公園(阿蘇地域)において、以下のボランティア活動を行うことを目的として、平成5年に設立されました。

- ・ 阿蘇の自然、自然との接し方などを国立公園利用者に対して説明
- ・ 国立公園内の美化清掃や動植物の保護など、景観や自然環境の保全
- ・ 阿蘇の自然に関する調査

主な活動内容-----

(1) 自然観察会の実施

- ・ 年に5回程度、阿蘇の自然に親しむ集いを開催。毎年多数が参加する定番のプログラムもあり、大変好評。

(2) 清掃活動

- ・ 自然公園クリーンデーなど、各種の清掃活動に協力
- ・ 野草園の清掃活動も実施

(3) 調査

- ・ 阿蘇の文化資源である「草の道」を調査

阿蘇の草原保全・再生に関連する取り組み-----

平素より、自然観察会の実施による阿蘇の草原に関する情報の普及啓発や、パトロールの実施による希少植物の盗採防止活動などを行い、阿蘇の草原を守っています。

平成15年度からは、環境省で行っている阿蘇草原再生の調査に、パークボランティアの会として協力しています。希少植物の生息地の管理を行う実証試験地において、実際の管理作業に参加しました。

草原再生への意見-----

阿蘇地区パークボランティアの会は、阿蘇の自然を愛する人々により結成されました。多くの会員が、登山や植物の観察、清掃奉仕活動など、それぞれの面から阿蘇の草原環境保全に取り組んでおり、その大切さを誰よりも実感しています。

そのため、環境省が阿蘇草原再生の取り組みを始めたことは、大いに評価しており、会として協力できることはどんどんと協力していきたいと考えています。この取り組みが大いに発展し、阿蘇の草原環境が後世に引き継がれることを切に望みます。

阿蘇フォーラム

代表者名： 委員長 井 信行

住所・連絡先： 〒869-2612

熊本県阿蘇市一の宮町宮地 6029-1 国立阿蘇青年の家内

電話 0967-22-0811

<http://www.asofan.net/aso-forum/>

団体の概要・設立趣旨など

- (1) 世界の阿蘇のすばらしさとは何かをよく知ろう
- (2) 阿蘇の自然や文化の保全と活用を考えよう
- (3) 阿蘇の未来を一緒につくろう

主な活動内容

- (1) 情報誌「あそぼ～よ」やインターネット等で、地域の情報の共有と発信をします。
- (2) 互いの活動に参加したり、学びの場を作ったりして、阿蘇のことをもっとよく知り、考え、行動する機会を作ります。
- (3) 年に一度、「阿蘇フォーラムまるごとフェスタ」を行い、人や団体の活動の紹介や発表の場を作り、交流のネットワークづくりをしています。

阿蘇の草原保全・再生に関連する取り組み

平成16年10月30、31日開催の第4回「阿蘇フォーラムまるごとフェスタ」では、環境省と共催で、草原再生について説明し、参加・協力を訴えました。

また、阿蘇草原再生を紹介するブース出展、草原の野草を堆肥にを使って育てた野菜（草原再生シール貼付）の販売を行っていただきました。

草原再生への意見

阿蘇の草原は、暮らしと深く関わりながら保たれてきたものです。阿蘇フォーラムでは、参加されている農家の方達はもとより、商工業や観光業の方たち、そして住民の人たちと一緒に阿蘇のすばらしさの大きな要因である草原の保存を暮らしの活用の中で考えていきたいと思っています。

農業資源として、観光資源として、そしてエネルギー資源として大切にしていきたいものです。

阿蘇モーモーレディースの会

代表者名： 会長 草尾幸子

住所・連絡先： 〒869-2612

熊本県阿蘇市一の宮町宮地 5 6 0 8 - 1

熊本県畜産農業協同組合阿蘇支所内

電話 0967-22-0034

団体の概要・設立趣旨など

牛海綿状脳症（BSE）の発生以来、食の安全や健康、環境問題への関心が高まる中、地産地消運動展開のためにも、生産現場に携わる中で、女性の役割、重要性が再認識されるとともに、地域の融和と親睦を深め、活動を行う組織づくりが必要となってきました。

そのような中、熊本県畜産農協阿蘇支所における活動の一環として、女性の立場から畜産振興の一役を担うとともに、牛肉の消費拡大、安全性 PR、研修会、先進地視察等に取り組んで現在に至っています。

主な活動内容

- ・ 畜産農家視察研修（16年度は地元畜産農家3戸を視察研修）
- ・ 他支所モーモーレディース視察研修受け入れ（16年度菊池より周年放牧牧場視察）
- ・ 畜産関係の先生方を招いての講演会
- ・ 畜産まつり、品評会などへの参加呼びかけ
- ・ 主にあか牛の肉を使つての料理講習会

阿蘇の草原保全・再生に関連する取り組み

- ・ 夏山冬里放牧、周年放牧、野草地利用の放牧など、いろいろな放牧の形態での草地利用を進めています。
- ・ 減反田への牧草や飼料用稲などの作付けにより、田畑の荒廃を防ぐとともに、放牧・肥育の継続、畜産業の振興に努めています。

草原再生への意見

阿蘇の草原が危機に瀕していることについて、地元の人たちの意識改革をはかること、特に若い人たちにも今の現状を知ってもらうことが必要です。

うぶやまさわやかビーフ生産組合

代表者名： 組合長 渡辺裕文

住所・連絡先： 〒869-2703

熊本県阿蘇郡産山村山鹿 2107-1

電話 0967-25-2958

団体の概要・設立趣旨など-----

肉牛の生産から、精肉の販売までを農家自身がやることで、肉の安心・安全が確認できるしくみを作ること。

主な活動内容-----

子牛生産（繁殖）農家が、肥育までの一貫経営をすることにより、生産コストが下がり、消費者に安心安全な肉を適正な価格で供給できることをアピールし、肉の消費拡大を図ります。

阿蘇の草原保全・再生に関連する取り組み-----

牛肉の消費拡大というより、他の肉を買っていた消費者に、阿蘇の草を沢山食べた牛の肉を食べてもらうことで、阿蘇の原野で牛を飼う人が増えて、さらに牛も増え、結果的に草原の維持がしやすくなるような取り組みを行っています。

草原再生への意見-----

野焼きができなくて草原が荒れているわけですから、牛の放牧が昔のように多くなれば、草丈が短くなるため、炎が大きくなり、野焼き作業の危険度が減少します。

草原も、野焼きだけでは草（ススキ等）が大きくなる一方です。草を刈り取る事により、草の大きさを一定にでき、草の種類も増えます。

しかし、現実はそのようになるかどうかかわからず、検証には時間がかかると思われます。

草原の価値を理解し維持するには、金と人も必要です。

NPO 法人 九州バイオマスフォーラム

代表者名： 理事長 吉田愛梨
住所・連絡先： 〒869-2232
熊本県阿蘇市赤水 695-10
電話 0967-35-1128
<http://www.biomassml.com/kyushu.html>

団体の概要・設立趣旨など-----

- ・ バイオマス利活用に関する広報・啓発活動
- ・ 民間のバイオマスに関する窓口機関としての役割
- ・ バイオマス利用システムの構築とその事業性についての調査・研究活動
- ・ 九州において循環型社会の形成を目指す

主な活動内容-----

(1) 広報啓発事業

- ・ シンポジウムやセミナーの開催
- ・ パンフレットや各種資料の作成
- ・ 見学会・研修会の企画・運営
- ・ 他のNPO・NGO・企業・行政が主催するバイオマス関連事業のサポート

(2) バイオマス利用地域モデル推進事業

- ・ 地域で発生する食品廃棄物等の有機性廃棄物リサイクルシステムの構築、あるいは食品廃棄物を利用した新商品・特産品の研究開発
- ・ バイオマス利用事業化に向けたフィージビリティ-調査・フィールドテスト調査
- ・ 地域住民、農家、企業への意識調査・ヒアリング調査
- ・ 個人、農家、企業、自治体等に対するバイオマス利用のための情報提供・コンサルティング事業

(3) 交流事業及びバイオマス関連製品の普及促進事業

- ・ 交流会・各種イベントの企画・運営
- ・ ペレットストーブや生分解プラスチック製品などバイオマス関連製品の展示会
- ・ バイオマスに関する専門家・講師の派遣・斡旋・紹介サービス

阿蘇の草原保全・再生に関連する取り組み-----

草の流通および利用促進による草原の保全を目指すため、草資源流通センターの設立に向けて事業性の調査と広報啓発活動を行っています。具体的に行っている活動は、以下のとおりです。

- ・ 草資源流通センター設立を目指した座談会・検討会の開催
- ・ 草の収穫・収集コスト試算
- ・ 施設園芸農家や野菜農家に対する野草の堆肥としての需要調査
- ・ 草の流通システムの検討

草原再生への意見-----

草原の活用こそが、草原の保全につながるという考え方をベースに、草資源流通センターの設立の準備を行っています。そのためには、牧野組合の皆さんを始め、環境省や各関係機関の協力が必要不可欠です。今後ともご意見・ご協力をよろしくお願いいたします。

熊本県農業研究センター草地畜産研究所

代表者名： 所長 清島和生

住所・連絡先： 〒869-2304

熊本県阿蘇市西湯浦 1454

電話 0967-32-1231

<http://www.pref.kumamoto.jp/construction/section/nouken/060souchi.htm>

主な業務内容-----

- ・ 草地の利用・維持管理に関する試験研究
- ・ 放牧飼養による肉用牛（あか牛）及び農用馬に関する試験研究

草地の利用に関する最近の取り組み例-----

- (1) 肉用牛による草地の周年放牧利用・管理体系を構築
 - ・ 北方型牧草で造成した「改良草地」と、「野草地」とを季節毎に利用時期の区分・組み合わせを行うことにより、乾草等を補給することなく子取り用めす牛の周年放牧が可能となりました。
- (2) 放牧飼養による牛肉生産へのチャレンジ（地産地消を目指して）
 - ・ 一般に、畜舎の中で牛肉生産（牛の肥育）は行われております。潤沢化する草原の新たな利用や、生産環境等を考慮した生産方式（アウトドアでの草地放牧肥育）の試験に取り組んでいます。

阿蘇の草原の維持と畜産-----

- ・ 草原の生産性を高めるため、30年前をピークに北方型牧草を導入した草地造成が行われ、その面積は数千ヘクタールとなり、周年放牧や乾草生産に寄与しています。しかしながら、牧野組合によっては利用家畜の減少等により、野草地と同様に改良草地の維持管理に課題が生じております。
- ・ 草原（改良草地、野草地）の維持には、収益を伴う畜産による利用が最も効果的であり、管理された「草原」や牛馬の「放牧」は、多面的機能を発揮し、中でも景観資源として保持したいものです。
- ・ 肉用牛の周年放牧においては、改良草地と野草地との生産性の違いはあるものの、「野草地の価値」が見直されてきたところです。
- ・ さらに、草原の価値を高めるために、草原での無畜舎による牛肉生産を試みていますが、その牛肉は一般的な流通に馴染まないものであり、生産環境や生産手法、動物福祉等に関心のある消費層の支持・支援を必要としています。

はなしのぶコンサート実行委員会

代表者名： 委員長 今江正知

住所・連絡先： 〒869-1602

熊本県阿蘇郡高森町高森 3219 休暇村南阿蘇内

電話 0967-62-2111

団体の概要・設立趣旨など-----

音楽をとおして訪れる人々に阿蘇の自然を知らせ植物に関する理解を深めてもらい野生動植物の保護や自然保護思想の普及啓発を図ります。

主な活動内容-----

自然を愛し、花を愛し、阿蘇を愛する人達が集い、毎年6月第4日曜日に阿蘇の野の花に捧げるコンサートを開催、阿蘇野草園で野の花観察会を実施しています。

阿蘇の草原保全・再生に関する取り組み-----

コンサートは、人間と野の花を同じ目の高さで見るとともに同じ地球上に生きる仲間という意識をもって、人々の感性に訴えながら野生動植物の保護や自然保護思想の普及啓発を図ります。

草原再生への意見-----

草原の維持、再生には畜産農家との連携が最も必要であると思います。

よって畜産業や地元農業を営んでいる方々を中心に、話し合い、物事を考え、草原再生に取り組んでいく事が一番大事ではないでしょうか。

又、会合などでは農業経営者を一般の方々より多く集め、話し合う事が望ましいと考えます。